

学習指導案作成のポイント

国語科（現代の国語） 単元指導計画

◎◎高等学校

日時	令和〇年〇月〇日（〇）	場所	□□□□
クラス	△年△組（△△人）	1 授業者	◇◇◇◇
科目名	現代の国語	単元名	「伝わる文章」を書こう
使用教材	「水の東西」 （山崎 正和）	使用教科書	▽▽▽▽▽
2 教材観	本教材は、「鹿おどし」と「噴水」という「水」に関する事物を例として、日本文化と西洋文化を二項対立で論じ、日本人の感性と日本の文化の特質を述べた比較文化論である。比較的短い評論文であるため生徒にとって読みやすいと思われる。具体的な事物から抽象的な概念へ迫る論の展開や、論を進める過程で用いられている二項対立など、「評論文」の基礎を学習する上で理解しておきたいポイントを多く含む重要な教材である。したがってこの教材は、「評論文」の読解の基礎を身に付け、文章の構成や展開について考えを深める教材としてふさわしい。		
3 生徒観	入学後に△年△組を対象に行った事前アンケートでは、論理的文章よりも文学的文章のほうが好きだと答える生徒が8割を超えており、論理的文章を苦手と感じている生徒も多い。本単元では、既習の教材との共通点などにも触れながら、展開を丁寧に追うことで筆者の主張を正確に把握し、それを踏まえて生徒自らも論理的な思考と表現ができるようになることを目指す。		
4 指導観	「教材観」及び「生徒観」を踏まえ本単元では、中学校までの「説明的な文章」から「評論文」への接続を意識し授業を行う。語彙、構成など、新出の知識も多いため、生徒の反応をみながら交流の時間を適宜設けるなど、興味・関心を引き出す工夫をしたい。 言語活動については、授業内で学んだ知識・技能を活用して「説明的な文章」と「評論文」との違いを「伝わる文章」というテーマで書く活動を設定した。この活動は、今後、生徒が「評論文」を読む際の基礎となる事項を生徒自らがまとめることで読解力の向上を図るとともに、相手に伝えることを意識した文章を書くことで文章構成力や表現力を磨くことをねらいとする。		

5 1 単元の目標

- (1) 実社会において理解したり表現したりするための必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
- (2) 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

9 2 単元の言語活動

本単元の教材で学んだ内容を基に、「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いについて比較しながら、手に「伝わる文章」を論述する。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)イ）

- 単元とは、「教材や学習活動を主題ごとに関連をもたせ、一定の教育目的のためにひとまとめにされた学習計画」を指す。各校の年間指導計画や教科書に記載されている単元名を記す。
 - 注意** 「単元名」は「教材名」ではないので注意すること
- 「教材観」では、「何を学ぶのか(内容)」や、「何ができるようになるのか(資質・能力)」について、当該教材のもつ価値や内容、単元の目標にせまるための有効性等を記す。
 - ② このような教材で
- 「生徒観」では、「日常における国語についての生徒の実態」や、「これまでの学習履歴」について、生徒がもつ興味・関心だけでなく、本単元を学習するにあたって、これまでどのように学んだ結果、どのような資質・能力が身につけているものの、どのような資質・能力が定着していないか、を踏まえて、本単元ではどのような生徒の姿を目ざすのか等を記す。
 - ① このような実態だから
- 「指導観」では、「どのように学ばせていくか(指導方法)」や、その単元で、何をどのように指導するのか(工夫・手だて)を具体的に書く。「生徒観」及び「教材観」を踏まえて設定した言語活動の特徴や効果を記す。
 - ③ このような指導を行う
- 〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕、「学びに向かう力、人間性等」の3観点を柱に基づいて示す。
 - 3観点それぞれ1つずつを基本とする。ただし、〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕は単元によってはそれぞれ目標が2つになる(単元の目標が計4つになる)こともありうる。
 - 参考** 学習指導要領各科目の「内容」、または解説 p328 からの「指導事項」
- 〔知識及び技能〕の「指導事項」を抜き出し、文末を「…ができる。」に変えて記す。
 - 末尾に学習指導要領の「指導事項」を左記にならって記す(例においては(1)エ)。
 - 参考** 学習指導要領 p33、解説 p71
- 〔思考力、判断力、表現力等〕の「指導事項」を抜き出し、文末を「…ができる。」に変えて記す。
 - 〔思考力、判断力、表現力等〕は、A話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むこと、の3領域の中から1つとする。
 - 注意** 科目によっては設定のない領域があるので注意すること
 - 参考** 学習指導要領解説 p14
 - 注意** 各校の年間指導計画で設定された領域と不整合のないよう注意すること
- 「学びに向かう力、人間性等」は、科目や単元に関わらず「言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。」とする。
 - 参考** 学習指導要領解説 p326 「科目目標」の、「学びに向かう力、人間性等」
- 「2 単元の言語活動」は、単元の目標を実現するために適した言語活動を、学習指導要領の言語活動例を参考に記す。
 - 「1 単元の目標」で記載した〔思考力、判断力、表現力等〕の領域と対応させて記す。
 - 末尾には「関連」として、学習指導要領との関連を記す。

3 単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 実社会において理解したり表現したりするための必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (I)エ	① 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 (B(I)イ)	① <u>④レポートを書くことを通して、③自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を①粘り強く考える中で、②自らの学習を調整しようとしている。</u>

4 指導と評価の計画 (全5時間)			
次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次 (1時間)	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見直しをもつ。 ○ワークシートに取り組む。 ○中学校での「説明的な文章」について確認する。 ○段落分けをし、本文の構成を理解する。	[知識・技能] ①	「記述の点検」
第2次 (2時間)	○本文を読解する。	[知識・技能] ①	「記述の確認」
第3次 (2時間)	○本文のまとめを行い、筆者の考えを確認する。 ○「説明的な文章」と「評論文」の違いについて、論述する。 ○他者の論述を確認し、自身の論述の参考とする。 ○レポートの清書を行う。 ○振り返りシートを通して、「説明的な文章」と「評論文(論説文)」の違いを書くに当たり自身がどのように学びを調整したかを省察する。 (本時1/2)	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の分析」

8 【単元の流れ】			
時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見直しをもつ。 ○中学校で学んだ「説明的な文章」について確認する。 ○ワークシートに取り組み、本文を通読し、重要語句などの確認を行う。	・本文を学んだ後に、レポートを書くこと、「説明的な文章」と「評論文」の違いをテーマにすることを意識付けする。 ・ペア活動で答えを確認し、なぜそうなったかを説明させる。	[知識・技能] ① 「記述の点検」ワークシート ・本文の記述の順番が正しく整理され、なぜそうなったかペアで確認した際の記述があるか点検する。

2

- それぞれの文頭に丸囲みの数字を付す(1つの場合は①のみ)。
 - 「4 指導と評価の計画」の「評価する内容」と対応させて記す。
- [知識及び技能]、[思考力, 判断力, 表現力等]については、「1 単元の目標」の文末を「～している。」に変えて記す。
- 「学びに向かう力, 人間性等」のうち、「感性, 思いやりなど」は個人内評価にとどめることとなるため、ここでは[主体的に学習に取り組む態度]について記す。
 - 以下の4要素を全て含んだものとなるよう工夫して記す(以下の順番でなくてもよい。赤線部を参照)。
 - ① ねばり強さ(積極的に・進んで・粘り強く等)
 - ② 自らの学習の調整(学習の見直しをもって・学習課題に沿って・今までの学習を生かして等)
 - ③ 他の2観点において、重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
 - ④ 当該単元の具体的な言語活動
 - 文末は「～しようとしている。」とする。

参考 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校国語』 p40
- 第1「時」ではなく「次」であることに注意する。単元における学習の段階(導入・展開・まとめなどの段階)を想定して位置づける。したがって、全体の時間数とは必ずしも一致しない(例のように少なくなる)ことがある。
- 「主たる学習活動」は、生徒主体で記す。
 - 「評価する内容」は、「3 単元の評価規準」と対応させる(1時間に1～2つとする)。
 - 「評価方法」は、生徒の「行動」または「記述」について、「観察・点検」、「確認」、「分析」のいずれかで位置づける。それぞれの使い分けについては、以下を参照。

参考 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校国語』 p44
- 「どの段階で何をどのように評価するのか」について整理する。
 - 学習活動については【単元の流れ】で詳細に記載するため、ここでは簡潔に記す。
- 学習指導案における本時を含む行全体を太線で囲む。
 - 各「次」が複数時間を含み、その内に本時が該当する場合、(本時○/○)と記す。(例のように「第3次」が2時間の計画で、その1時間目が本時の場合は(本時1/2)のように示す)。
- 【単元の流れ】は「時」であるため、「4 指導と評価の計画」の全時間数と対応させて記す。

2	○第1、2段落を読解する。	・第1、2段落の読み取りを行い、「二項対立」の構成について理解させる。 ・「二項対立」で例示されている内容が日本と西洋の文化に通じることを理解させる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」ノート ・記載内容を確認する。
3	○第3、4段落を読解する。	・第3、4段落の読み取りを行い、「鹿おどし」「噴水」の比較を通して、筆者が何を述べているのかに注目させる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」ノート ・記載内容を確認する。
4 (本時)	○本文のまとめを行い、本文の構成、筆者の考えを理解する。 ○「説明的な文章」と「評論文(論説文)」の違いについて、相手に伝わるようにレポートを書く。 ○他者のレポートを読み、相手に伝わる書き方を考察する。	・日本と西洋を比較し、日本文化、日本人について筆者の考えを述べている構成を理解させる。 ・書くのが苦手な生徒には、レポートの例に沿って書くように助言する。 ・ペアでの確認や回し読みを行い、書く内容を確認させる。	[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」レポート ・本文を通して学んだ構成、知識を用いた内容になっているか、レポートを分析する。
5	○レポートの清書を行い、グループで伝わりやすさを評価する。 ○振り返りシートを記入し、自身の学びを省察する。	・相手に伝わるよう、他者の書き方を参考に表現するよう助言する。 ・評価の項目を記入する際に、授業の振り返りをしながら、客観的に自己評価することを促す。	[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」レポート ・本文を通して学んだ構成、知識を用いた内容になっているか、レポートを分析する。 [主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の分析」振り返りシート ・振り返りシートの内容から、自身の学習を調整しながら相手に伝わるように、説明の仕方や表現の仕方を工夫できたか分析する。

- ① ・ 本時については(本時)と示し、行全体を太線で囲む。
- ② ・ 「学習活動」は、生徒主体で記す。一方「指導上の留意点」は、教師主体で記す。
・ 「評価規準・評価方法等」は「4 指導と評価の計画」における「評価する内容」及び「評価方法」と対応させて記す。評価する方法・場面と、評価規準「B(おおむね満足できる状況)と判断できる状況」を記す。

≪本授業における評価の実際≫

5 観点別学習状況の評価の進め方

1

共通必修教科目「現代の国語」の「内容」の〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)イに「30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「B書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

2

1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]①の「実社会において理解したり表現したりするための必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている」状況を、「新出語彙や、わからない単語などを自ら確認し、二項対立の構成を理解したうえで、筆者の主張を正しく読み取っている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、主にノートの記事を確認し評価する。

本文の読み取りができていない状況を C と捉え、個別に声をかけて、ヒントとなる本文の記事を示す、語句の意味を隣同士共有するなどし、読み取りを行うよう促す。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現]①の『「書くこと」』において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができている」状況を、「レポートの清書において、他者に伝わりやすい文章作りを意識し、「説明的な文章」と「評論文（論説文）」の違いについて、本文で学んだ知識を活用し論述している」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、レポートの記事を分析し評価する。

レポートを自分の言葉で書くことができない状況を C と捉え、レポートの例に沿って書くよう促す。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「レポートを書くことを通して、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「読解を通して理解した知識や技能を活用して論述している」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、振り返りシートの記事、自己評価を分析し評価する。

本単元を基にした気付きや学びがまとめられず、努力を要すると判断する状況を C と捉え、振り返りシートの記事を参考に、単元を通して気付きや学びがどこかにないか探るよう促す。

1

- ・ 赤線部以外の部分について、位置づけた内容に応じて記す。
- ・ はじめに、当該科目の「1 単元の目標」で位置づけた〔思考力、判断力、表現力等〕について、学習指導要領の「内容の取扱い」を抜き出して示す。

参考 例においては、学習指導要領 p35、学習指導要領解説 p103 を参照した

2

- ・ 赤線部以外の部分について、位置づけた内容に応じて記す。
- ・ まず、「3 単元の評価規準」及び「4 指導と評価の計画」で示した3観点それぞれの評価規準について、「Bと判断する状況」を示す。
- ・ 記載例：『4「評価する内容」』の『3「単元の評価規準」』状況を『4【単元の流れ】で示した内容を踏まえながら、想定される具体的なBの状況』姿（「おおむね満足できる状況(B)）と捉え、『「評価方法」』し評価する。
- ・ つぎに、「C(努力を要する状況)と判断する状況への手立て」を記す。
- ・ 記載例：『4【単元の流れ】で示した内容を踏まえながら、想定される具体的なCの状況』状況をCと捉え、『具体的なCへの手立て』よう促す。
- ・ [知識・技能]または[思考・判断・表現]で目標を複数設定していた場合は、それぞれについて(評価規準①だけでなく②についても)記す。

6 学習指導案(4時間目/全5時間)

1 本時の目標: ア. 他者に伝わりやすい文章作りを意識し、「説明的な文章」と「評論文(論説文)」の違いについて、本文で学んだ知識を活用しレポートを書くことができる。

2 言語活動: 本単元の教材で学んだ内容を基に、「説明的な文章」と「評論文(論説文)」の違いについて比較しながら、相手に「伝わる文章」を論述する。

[思考力, 判断力, 表現力等] B(1)イ

本時の展開:

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	<input type="checkbox"/> 本時の目標を確認する。 <input type="checkbox"/> 前時までの学習内容を確認する。	・伝わりやすい文章を書くことが目標であり、そのための言語活動として本時ではレポートを書くことを確認する。 ・教科書とノートを見直し、本文の内容と構成を確認する。	・ペアで確認させる。
展開① 10分	<input type="checkbox"/> 本文の内容をまとめる。	・日本と西洋を比較しながら、日本文化、日本人について筆者の考えを述べているという本文の構成を理解する。	・「二項対立」が分かりやすい板書になるよう工夫する。
展開② 30分	<input checked="" type="checkbox"/> レポートを書く。 <input type="checkbox"/> ペアで交流する。	・本文の内容(特に「二項対立」)を確認しつつ、レポートの例を参考にしてレポートを書く。 ・他者のレポートを読み、改善点などを話し合い、相手に伝わる書き方を考察する。	【本時の目標アに対する評価規準と評価方法】 規準: 他者に伝わりやすい文章作りを意識し、「説明的な文章」と「評論文(論説文)」の違いについて、本文で学んだ知識を活用しレポートを書くことができる。 方法: 「記述の分析」(レポート、机間指導) [状況Cに対する手立て] ・レポートの例に沿って書くよう助言する。 ・ペアでレポートを交換して互いに読み合わせる。
まとめ 5分	<input type="checkbox"/> 本時の内容をまとめる。 <input type="checkbox"/> 次回の内容を確認する。	・本時の目標を再確認し、自分の書いたレポートを見直す。 ・次回はレポートの清書と、グループ交流を行うことを確認する。	・下書きが終わっていない生徒に対して、次回で完成させるという見通しをもって取り組むよう注意を促す。

- 1** ・「本時の目標」は、「1 単元の目標」及び「3 単元の評価規準」で示した内容を踏まえて、本時間におけるより具体的な目標を記す。
- 2** ・単元における主となる言語活動を本時で行う場合は、「2 単元の言語活動」と同じでよい。
- 3** ・「学習内容」及び「学習活動」は、生徒主体で記す。したがって、文末は「…する。」となることが多い。
- 4** ・「指導上の留意点・評価」は、教師主体で記す。したがって、文末は「…させる」、「…するよう助言する」、「…を促す」などとなることが多い。
- 5**
 - ・本時の主となる「学習内容」については、例のように◎で示すなど分かりやすく示すとよい。
 - ・本時の主となる活動については、「指導上の留意点・評価」で「本時の目標」に対する「評価規準」及び「評価方法」を記す(例においては、【目標Aに対する評価規準と評価方法】・「状況Cに対する手立て」)。
 - ・「評価規準」は、「本時の目標」の文末を「…できている。」に変えて記す。
 - ・「評価方法」は、「4 指導と評価の計画」の【単元の流れ】の本時の部分と対応させて記す。
 - ・「達成のための手立て」は、「5 本授業における評価の実際」の「Cに対する手立て」と対応させて記す。

留意事項

- ・研究授業の実施にあたっては、予め教科会等をもって内容を検討したり、教科主任等の指導助言を受けたりしながら、所属校としてよりよいものにしていくことが望ましい。
- ・高校教育課訪問等、所属以外の参加者が参観する研究授業においては、原則として予め校内で決裁を受けること。
- ・指導主事等が参加して授業研究会等で指導を受ける研究授業については、原則として事前に参観する指導主事に宛てて「word形式」等編集できるフォーマットで学習指導案を提出すること。